

- 「**共通言語**」としてのPRA (Apostolakis et al., 1989\*)
  - バベルの塔の比喩：共通言語がないと混乱してしまう
  - PRAは“a kind of **lingua franca** of risk-related decision making”
  - 組織要因や安全文化なども定量化してPRAに組み込もうという当時の文脈
- **組織内—組織間—市民・社会の間で、PRAは「共通言語」たりうるか？**
- **CDFやCFFが「共通言語」ではなさそう**
  - 事業者の実際の意思決定は、PRAの結果のみでは決めていない
  - PRAの結果（数値）を直接的に公衆への「説得」材料とすることは困難
- **PRAは、様々な人を巻き込み、様々な議論を誘発する**
  - リスク評価の過程で、複数の部署や専門知を巻き込む
  - 意思決定において深層防護などと統合的に考える際に、議論や内省を促す など
- **市民・社会とのコミュニケーションも“risk-informed”に？**

\* Apostolakis, GE, Bickel JH, Kaplan S, 1989, Probabilistic risk assessment in the nuclear power utility industry, *Reliability Engineering and System Safety* 24, 91-94.